

# 予 算 要 求 資 料

令和3年度当初予算 支出科目 款：農林水産業費 項：農地費 目：農地事業諸費

## 事業名 飛騨エアパーク管理運営費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

農政部 農地整備課 事業管理係 電話番号：058-272-1111 (内 2669)

E-mail：c11431@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 8,189 千円 (前年度予算額：8,293 千円)

### <財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財産 収入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	8,293	0	0	4,240	6	0	246	0	3,801
要求額	8,189	0	0	4,186	6	0	216	0	3,781
決定額	8,189	0	0	4,186	6	0	216	0	3,781

## 2 要求内容

### (1) 要求の趣旨 (現状と課題)

県の行政財産である飛騨エアパークを維持管理するために、所要の経費が必要である。近年、農産物空輸回数は減少傾向にあり、防災活動やライダーなど多目的利用が中心となっている。

- ・農産物空輸回数

H30年度：0回、R1年度：0回

- ・防災活動やライダーなどの多目的利用

H30年度：1,035回、R1年度：752回

### (2) 事業内容

飛騨エアパークの管理運営を行う。

本施設は農道離着陸場と防災ヘリポートからなる行政財産であり、農産物空輸や防災活動の他にライダーなど多目的に利用されている。

#### ① 施設管理委託

管理運営の一部を外部へ委託する。

#### ② 多面的活用推進

県有財産の休日利用を図り、多目的利用を推進する。

③その他

管理運営に必要な光熱水費等。

(3) 県負担・補助率の考え方

県 100%

(4) 類似事業の有無

なし

3 事業費の積算内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
旅費	42	関係機関との打合せや現場確認に要する交通費
需用費	634	施設管理に要する光熱費等
役務費	317	管理棟で使用する電話料等
委託料	7,196	管理運営に関する外部委託
合計	8,189	

**決定額の考え方**

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

○長期構想

1 新たな「成長・雇用戦略」の展開

(2) 未来につながる農業づくり

(2) 後年度の財政負担

今後も維持管理に経費が必要である。

# 事業評価調書

新規要求事業  
 継続要求事業

## 1 事業の目標と成果

### (事業目標)

- ・何をいつまでにどのような状態にしたいのか  
飛騨エアパークを適正に運営管理し、施設の有効かつ円滑な利用に努める。

### (目標の達成度を示す指標と実績)

指標名	事業開始前	指標の推移		現在値	目標	達成率
	(R)	(R)	(R)	(R)	(R)	%
	(R)	(R)	(R)	(R)	(R)	%

### ○指標を設定することができない場合の理由

農道空港の維持管理に要する定型的な経費であり、指標を設定することができない。

### (前年度の取組)

- ・事業の活動内容（会議の開催、研修の参加人数等）
  - (1) 利用状況（令和2年度見込み）

農産物空輸	:	1回
防災活動	:	5回
多面的利用	:	471回
計	:	477回
  - (2) 利活用検討会の開催  
令和2年6月に開催（参加：関係市町村等9機関）

### (前年度の成果)

- ・前年度の取組により得られた事業の成果、今後見込まれる成果  
飛騨の農産物のPRを目的として、京阪百貨店で開催される「飛騨フェア」に向けて、9月12日に農産物を空輸。9月13日は天候不順のため空輸は行わず、陸送に切り替えた。  
一方、防災活動やグライダーなどの多目的利用が増加していることから、関係機関と意見交換を行い、より効果的な施設の活用方法を検討している。

## 2 事業の評価と課題

### (事業の評価)

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事業の必要性（社会経済情勢等に沿った事業か、県の関与は妥当か） ○：必要性が高い、△：必要性が低い</li> </ul>	
(評価) ○	飛騨エアパークは県行政財産であるため、県の関与は不可欠であり、事業の必要性は高い。
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか） ○：概ね期待どおり又はそれ以上の効果が得られている、△：まだ期待どおりの成果が得られていない</li> </ul>	
(評価) ○	施設が適正に運営管理され、おおよそ 1,000 回/年以上の利用がある。 平成 29 年度：1,016 回（うち農産物空輸は 1 回） 平成 30 年度：1,035 回（うち農産物空輸は 0 回） 令和元年度：752 回（うち農産物空輸は 0 回）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） ○：効率化は図られている、△：向上の余地がある</li> </ul>	
(評価) ○	農道離着陸場とヘリポートを一体的に管理するとともに、日常管理を（一社）飛騨エアパーク協会に委託し、管理の効率化を図っている。

### (今後の課題)

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事業が直面する課題や改善が必要な事項            高速道路網の整備や保冷技術の向上等、社会情勢の変化や技術革新により、大量に鮮度を保ったまま農産物の陸送が可能となり、農産物の空輸が減少している。一方、防災活動やグライダーなどの多目的利用が増加しており、今後の施設の利用及び運営管理について検討する必要がある。</li> </ul>
---

### (次年度の方向性)

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか            飛騨エアパークは岐阜県災害時広域受援計画において飛騨圏域の広域防災拠点に指定され、また、中部圏で東南海トラフ巨大地震などの大規模災害が起きた場合の後方支援基地となる広域防災拠点に位置づけられるなど、大規模災害時の広域防災拠点としての役割が大きくなっている。今後は、災害時にも対応可能な施設の運営管理体制の整備に取り組んでいく必要がある。</li> </ul>
---

### (他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント又は事業名及び所管課	【〇〇課】
組み合わせる理由や期待する効果 など	